

大学生と農山漁村との連携事例



和歌山大学

実施主体名: 青みかん(摘果みかん)の価値を上げる
(有田市宮原青みかんLPP)

担当窓口

和歌山大学観光学部 地域連携プログラム
(Local Partnership Program, LPP)

URL

https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/local_study/lpp.html



活動内容

地域の課題や学生のニーズを踏まえ商品開発やレシピ、栽培情報等の班を組織し、コロナ禍では様々な制約を受けつつも創意工夫を凝らしながら、若い世代ならではのユニークな活動を展開。主な活動内容は①青みかんのさわやかな風味と苦みを生かしたレシピや新商品の開発、②地元小学校で地域資源の活用に関する食育授業の実施、③他大学等の連携イベントに出店し、活動の普及啓発とネットワークの構築等に取り組む。有田市の醤油醸造業者との連携により生まれた「青みかんぽん酢」は令和6年度に商品化。なお、活動資金はクラウドファンディングで調達した。



きっかけ

有田市では有田みかんのブランド化が推進される中で、未利用資源であった青みかん(摘果みかん)に、抗アレルギー作用や血行促進に効果があるとされる成分が多く含まれていることに着目。有田市宮原地区の有志メンバーからの呼びかけで、和歌山大学観光学部の学生と地域との連携により、青みかん(摘果みかん)の価値向上とみかん産地の活性化に繋げるため、令和2年度から地域連携プログラム(Local Partnership Program, LPP)として活動を開始。



展望

LPPによる活動が令和6年度末で一区切りを迎えたことから、令和7年度はその取り組みを継続発展させるため、学生が主体となって活動計画を作成し、観光学部がプログラムを認定する「学生主導LPP」として、青みかんの魅力と価値を発信しながら、開発中の「青みかん商品」が地域活性化の新たな柱となることを目指して、精力的に活動していきたい。



みかんの摘果作業



摘果した青みかんの洗浄



青みかんの搾汁



商品化が実現した
「青みかんポン酢」